

2023年度

シラバス

看護学科編

（2年生用）

藤田医科大学 保健衛生学部

FUJITA HEALTH UNIVERSITY SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

シラバス（Syllabus）の活用について

このシラバスでは、各学科の授業科目について、その概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法とオフィスアワー（学生が教員を訪問して質問できる曜日・時間帯など）、教材・テキスト・参考書、準備学習・履修上の注意点などが記載されています。学生諸君はこれをよく閲覧して効率的にまた主体的に学習する道標としてください。

シラバスの目的は学生のためだけでなく教員のためでもあり、授業計画の進捗状況と、設定された目標を学生が達成し、学習効果をあげているかを総括できます。学生と教員お互いのコミュニケーションのツールとして是非活用してください。

大学では、高等学校まで学生諸君が受けていた受身の与えられる姿勢での学習ではなく、自分で問題点・重要点を探し、調べ、学び取っていく能動的な学習が求められます。逆に言えば大学教員は必要な学習情報が何かを示しますが、それを直接細かく情報伝達することを主目的とはせず、あくまで、学生諸君が効率的に将来有効な重要な情報や技術を会得することを支援することを目的とします。このシラバスを自己の学習の羅針盤に見立て効率よい学習に役立ててください。

では、保健衛生学部での４年間の学習で、将来の各医療職のエキスパートとして成長する、その基礎固めができるよう、充実した学生生活を送れるよう願っています。私達、教職員はそのための支援の向上を今後も図っていきます。

2023年4月

保健衛生学部長 金田 嘉清

保健衛生学部 of 教育理念・目標・ポリシー

1. 教育理念

保健衛生学部は、本学の建学理念である「独創一理」を踏まえ、人間の生命を尊重する倫理観と心豊かな幅広い人間性を培い、協調性と責任感を持って看護学、リハビリテーション学各分野の知識・技術の修得をもとに、課題探求能力を育成し、専門的素養のある人材として社会に貢献できる人材を育成する。

2. 教育目標

- 1) 人間の健康と生命を護る役割を自覚して知識や経験を身に付け、社会の変化や医療の進歩に適応できる人材を育成する。
- 2) 医療に関する知識、技術、思考力、判断力の修得をもとに、自らの課題探求、問題解決能力を育成する。
- 3) 医療に従事する者としての責任感と協調性を養い、チーム医療を実践できる人材を育成する。

3. 保健衛生学部の3ポリシー

保健衛生学部は、これまで医療科学部として看護学、リハビリテーション学の各分野で専門的な能力を発揮し、医療を通じて幅広く社会に貢献できる人材を育成してきました。保健衛生学部となり、さらに各分野の専門的な知識や技術を教育することはもとより、心豊かな人間性と幅広い教養を育み、強い信念をもって課題に取り組む能力と人間の生命を尊重する倫理観を備え、責任感と協調性をもって患者中心の専門職連携を実践できる「医療人」を育成したいと考えています。さらに、今後見込まれる社会構造の変革に対して柔軟に対応できる人材が必要と考え、地域医療・介護福祉の教育および研究を重要な新課題ととらえています。そこで、地域ケア実践指向の「藤田医科大学地域包括ケア人材育成教育プログラム」を立ち上げ、全国初の大学発信型の「住み慣れた地域での生活継続」を可能にする人材育成モデルを構築しています。このように、保健衛生学部はわが国の地域に根ざした医療、さらに

保健・福祉へと幅広く貢献できる「医療人」の育成を目指す一方で、海外の医療系諸大学との人材交流を活発に進め、国際的な視野を持った「医療人」の育成をも目指しています。

3.1. アドミッション・ポリシー（入学受け入れ方針）

保健衛生学部では、本学が育成しようとする「医療人」となることを目指す入学に対して、次のような素養を求めています。

（知識・理解・思考・判断）

1) 入学後の修学に必要な基礎学力と学ぶ力を有している。

（態度・興味・関心・意欲）

2) 生命に対する健全な倫理観をもち、弱者に対する奉仕と思いやりの精神をもっている。

3) 保健衛生、医療福祉に対する関心が高く、この分野に貢献したいという目的意識をもっている。

4) 生涯にわたり自己啓発・自己学習を継続する意欲をもっている。

（技能・表現）

5) 誠実さと協調性をもって他者と接することができる。

6) 自分の考えや行動に責任をもち、それを相手に明確に示すことができる。

以上の素養を、一般入試では、上記 1) に重きをおき、上記 2) ～6) は提出書類から加味して評価しています。共通テスト利用入試、共通テストプラス入試では、上記 1) について評価しています。医療職連携の適性を重視したアセンブリ入試では上記 1) ～6) の全てについて評価をしています。また、学校推薦では上記 2) ～6) に重きをおきますが 1) の評価も加味します。保健衛生学部では、このようにさまざまな選抜試験を行い、それぞれの試験で総合的に評価します。

禁煙への取り組み

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

3.2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健衛生学部の教育目標として、以下の 3 点を掲げています。

1) 人間の健康と生命を護る役割を自覚して知識や経験を身に付け、社会の変化や医療の進歩に対応できる人材を育成する。

- 2) 自ら課題を発見して解決する探究心を養い、医療技術の発展に寄与できる人材を育成する。
- 3) 医療に従事する者としての責任感と協調性を養い、チーム医療に貢献できる人材を育成する。

この3つの目標を念頭に、看護学科、リハビリテーション学科において、それぞれの特性を活かした教育課程を編成しています。特に項目3の推進のために、藤田医科大学の医学部、医療科学部、保健衛生学部および看護専門学校が連携してグループ別に特別教育活動を展開する「アセンブリ」を導入しています。

3.3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

保健衛生学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

（知識・理解）

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

（思考・判断）

- 3) 対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができる。

（興味・関心）

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができる。

（態度）

- 6) 対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

（技能・表現）

- 7) 専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができる。
- 8) 患者や家族とコミュニケーションをとり、保健・医療・福祉チームのメンバーと良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たすことができる。

4. アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）

藤田医科大学 医療科学部および保健衛生学部は、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシーに基づき、機関レベル（学部）、教育課程レベル（学科・専攻）、科目レベル（個々の授業）の3段階で学修成果を評価する方法を定めます。

1) 機関レベル

学生の志望進路（資格・免許を活かした専門領域への就職率および進学率等）から学修成果の達成状況を評価します。

2) 教育課程レベル

学部・学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA）から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。また、学年ごとの単位取得率・成績分布の状況から、各学年全体の学修態度と学修傾向を評価し、1年次から4年次までの基礎から専門科目の個々の単位修得状況を学修成果として評価します。

3) 科目レベル

授業等科目のシラバスで提示された成績評価および学修目標に対する達成状況等の結果から、科目ごとの学修成果を評価します。

【評価指標】

レベル	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル (学部)	- 各種入学試験 - 新入生アンケート	- 休退学状況（休退学率） - 学生生活・学修生活実態調査（2年次と4年次） - 授業評価アンケート	- 卒業率 - 学位授与率 - 就職率 - 進学率 - 学生の動向追跡調査分析 - ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生の自己評価・教員評価・就職先施設による評価） - 卒業後アンケート
教育課程レベル (学科・専攻)	各種入学試験	- GPA - 成績分布状況 - 進級率	- GPA - 資格・免許取得状況 - 単位取得状況 - 国家試験合格率、合格者数
科目レベル (個々の授業)	入学後語学力確認テスト	- 成績評価（テスト、ルーブリック） - 授業科目別到達度自己評価	

【データの収集と分析・改善】

I R推進センター・教務委員会が上記データを収集し分析・検討を行います。分析結果は、全学教学運営委員会に報告し、各学科・部署にて継続的かつ効果的な教育の改善等に活用します。

看護学科の3方針

1. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

藤田医科大学保健衛生学部のアドミッション・ポリシーに基づいて、看護学科では以下のような学生を入学者として求めています。

- 1) 人の生命のかけがえのなさを理解し、誠実で責任ある態度で臨む人
- 2) 今日の社会に深い関心をもち、さまざまな文化と価値観を受け入れることができる人
- 3) 他者の言葉に耳を傾け、相手を理解しようとする姿勢と協調性のある人
- 4) 自分の意見や考えを、臆することなく人に伝えられる自己表現の能力をもつ人
- 5) 自由な発想と独創的な探究心によって、医療の課題とその解決に自主的に取り組むことができる人
- 6) 看護を通じて社会に貢献することを望み、困難な課題にもくじけない意思をもつ人

選抜方法については、保健衛生学部のアドミッション・ポリシーに準じます。看護学科では、基礎的学力の評価に一般入試、共通テスト利用入試では外国語（英語）を必須とし、数学、理科（物理・化学・生物）に国語を含めた科目選択式の選抜試験を実施しています。共通テストプラス入試において外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物）に国語を含めた科目選択式の選抜試験を実施しています。推薦入試において小論文を実施しています。アセンブリ入試一次選抜試験において国際適性試験、科学適性試験を実施しています。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

藤田医科大学保健衛生学部のカリキュラムポリシーに基づき、看護学科では、自らの専門性をもって医療の質向上とチームの一員として活躍できる人材を育成するため、以下のような指針に基づいて教育課程（カリキュラム）を編成しています。

- 1) 看護の対象である人を総合的に理解するために、人間性・倫理性・自発性・柔軟な論理的思考および創造性をもつ人材を育成する。
- 2) 保健医療福祉のチームの一員としての責任感と協調性をもつとともに、看護の責任

と役割に基づいて自律的な看護を実践できる人材を育成する。

- 3) アクティブラーニングなど多様な学習形態を活用しつつ、個別指導の充実を目指した教育を行う。
- 4) 実習だけでなく講義や演習においても、臨床現場の看護者と一体化した教育を行う。
- 5) 国際的な視点を身につけ、多様な文化や価値観をもつ人たちとコミュニケーションをできる人材を育成する。

3. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマポリシーに基づき、看護学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（看護学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、看護学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 看護職の基盤となる知識と技能を有している。
- 2) 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。
- 3) 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。
- 4) 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけている。
- 5) 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。
- 6) 保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができる。
- 7) 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。
- 8) 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。

看護学科の教育理念・教育目標について

1. 教育理念

看護学科は、本学の「獨創一理」の建学理念を踏まえ、人間の生命を尊重する倫理観と心豊かな幅広い人間性を培い、看護の知識・技術の修得を基に、統合した看護を提供できるジェネラリストを養成します。

本学科は流動的な社会情勢に応じて、人々の健康ニーズに対応できる理解力と思考力、判断力、想像力、実践力、不断の努力、冷静沈着な態度を養い、健康ニーズを充足するための問題解決能力を開発します。また本学のアセンブリ精神に則り、保健・医療・福祉チームの一員として社会的責任を自覚し、協同性をもって社会に貢献できる人材を育成します。

さらに本学科は、時代の変化に対応できるよう教育と研究を通し看護学の発展に努め、その成果を教育に反映させ、公共の福祉の向上に寄与します。

以上をまとめると、下記の能力を育成します。

- ① 独創的な精神をもとに、真理を探究する姿勢をもちつづけることができる。
- ② 豊かな感性を培い、生命倫理、看護の知識・技術を基に社会に貢献できる。
- ③ 総合医療系大学の特徴を活かし、保健・医療・福祉チームのなかで協働し責任を遂行できる。

2. 教育目標

看護学科の教育目標は、本学の教育理念を踏まえて、次のとおりとします。

- ① 看護の対象を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。
- ② 看護の責任と役割を認識し、看護の自律性を身につけ、責任ある行動をとることができる。
- ③ 国際的な視点を身につけ、豊かな感性を培い、多様な文化や価値観をもつ人々とのコミュニケーション能力を身につける。
- ④ 対象の人権を尊重し擁護する行動をとることができる。
- ⑤ 看護の社会的ニーズを認識し、保健・医療・福祉チームの一員として協働する能力

を身につける。

- ⑥ 看護の向上をめざして、リーダーシップ能力を発揮することができる。
- ⑦ 専門職業人としての自己を見つめ、自主的な学習を生涯継続していく姿勢がとれる。

3. 教育課程の主要概念：下位概念

【人間】

- ① 人間は、成長し、生涯発達する存在である。
- ② 人間は、生物的・精神的・社会的・スピリチュアル（霊的）な側面をもつ統合体である。
- ③ 人間は、信念・価値観などの固有の自己概念をもち、自己決定することができる。

【環境】

- ① 環境は、人間を取り巻くすべてのものであり、人間と環境は相互に関係している。
- ② 環境は、自然的環境・社会的環境で構成される。
- ③ 環境は、時間的・空間的に変化するものである。

【健康】

- ① 健康は、個体要因と環境要因の関わりの中で成り立ち、個別的で時とともに変化している。
- ② 健康は、人間が Well-being（安寧）をめざす、連続した状態である。

【看護】

- ① 看護は、あらゆる健康段階にある人間（個人・集団）を対象とする。
- ② 看護は、Well-being（安寧）をめざし、健康の増進、疾病の予防、治療およびリハビリテーション、ターミナル期における生活支援プロセスである。
- ③ 看護は、対象との相互作用を通して、対象の意思決定や自己概念を尊重し、全人的に働きかけ、自己実現をめざすものである。

2023 年 4 月

看護学科 学科長 三吉 友美子

科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に、学問分野や難易度などを表す番号を付し分類することで、教育課程の体系を分かりやすく明示する仕組みのことです。

2. 目的

- ・学問分野や授業の難易度、学修の段階が判りやすくなり、学生が将来の目標や関心をもって科目選択をすることで、主体的に履修計画を立てることができます。
- ・他大学との比較・連携につながる
他学部や他大学の教育課程の体系の理解にも繋がり、科目の学問分野や位置づけを知ること、履修する目的を明確に把握することができます。それにより、海外大学との連携や単位互換の一助・留学後のギャップの解消などグローバル的な効果も期待されます。

3. 科目コードの構成

S C B C 2 15
① ② ③ ④ ⑤ ⑥

ex 医療科学部－医療検査プログラム共通科目－2022 年度入学者から－専門分野－中級レベルの科目－科目識別コード

① 学部・研究科コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字

その授業科目の解説に最終的に責任を持つ組織名（学部・大学院研究科）もしくは、その授業科目が全学の共通教育科目であるかどうかを示す。

② 学科・専攻コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字

その授業科目が置かれている教育単位を示すもの。このコードは、カリキュラム上の責任組織や教育組織（学科、課程、プログラム、大学院の専攻）、あるいは科目群を示す。

③ カリキュラム年度コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字
教育課程がどの入学年度に対応するかを示す。

④ 分野・領域コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字
カリキュラム上の科目分野や大学院の科目領域を示す。

⑤ 水準コード

表記コード：0～9 文字数制限：1 桁
授業科目の難易度を示す。0～9 までの 10 のレベルに分けて示す。

⑥ 科目識別コード

表記コード：00～99 文字数制限：2 桁
授業科目を識別するもの。00～99 までの数字で表されている。数字の大きさが、その授業の難易度を示すものではない。

4. コード一覧

① 学部・研究科コード

組織・教育プログラム名	コード
学部共通科目	C
医学部	M
医療科学部	S
保健衛生学部	H
大学院 医学研究科	A
大学院 保健学研究科	B

② 学科・専攻コード

学部・研究科	学科・課程・専攻・科目区分	コード
医学部	医学科	M
医療科学部	学部内共通科目	G
	医療検査学科 プログラム共通科目	C
	医療検査学科 臨床検査学プログラム	T
	医療検査学科 臨床工学プログラム	E
	放射線学科	R
保健衛生学部	学部内共通科目	G

	看護学科	N
学部・研究科	学科・課程・専攻・科目区分	コード
保健衛生学部	看護学科 保健師	H
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	P
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	O
医学研究科	医科学専攻	M
	医学専攻	D
保健学研究科	保健学専攻	M
	保健学専攻 保健学 資格取得	Q
	保健学専攻 看護学	N
	保健学専攻 看護学 資格取得	F
	医療科学専攻	D
学部共通科目	学部共通科目	W

③ カリキュラム年度コード

教育課程該当年度	コード
2021 年度入学者まで	A
2022 年度入学者から	B

④ 分野・領域コード

分野・区分	コード	分野・区分	コード
基礎分野	A	保健学専攻・看護学領域	Q
専門基礎分野	B	保健学専攻・医用放射線科学領域	R
専門分野	C	保健学専攻・リハビリテーション領域	S
自由科目	D	保健学専攻・臨床工学領域	T
未分類	E	保健学専攻・医療経営情報学領域	U
医科学専攻・医科学領域	H	医療科学専攻・共通科目	V
医学専攻・共通科目	I	医療科学専攻・医療検査科学領域	W
医学専攻・基礎医学領域	J	医療科学専攻・放射線科学領域	X
医学専攻・臨床医学領域	K	医療科学専攻・リハビリテーション科学領域	Y
保健学専攻・共通科目	O	医療科学専攻・保健医療科学領域	Z
保健学専攻・臨床検査学領域	P		

⑤ 水準コード

定義	内容	コード
水準で分類のできない科目	・大学入学前に修得すべき内容を扱う科目 ・自由科目	0
学部前半の入門的な科目	・初年次の必修科目を含む、基礎的な教育科目・共通専門基礎科目 ・各学部等で、その専門領域を初めて学ぶ学生のための基礎的な専門科目	1

定義	内容	コード
学部前半の基盤的な科目	・展開的内容を扱う科目 ・基礎の発展・応用レベルの内容を扱う専門科目	2
学部後半の基盤的な科目	・より高度な内容を扱う科目 ・実践的・専門的に高度な内容を扱う専門科目（臨床実習を含む）	3
学部後半の発展的な科目	・学士課程で学習する最終段階の水準の科目 ・応用実習、卒業研究など発展的な専門科目	4
大学院修士課程の発展的な科目（講義科目）	・大学院修士課程を対象とする共通教育科目 ・極めて専門的に高度な内容を扱う大学院修士課程授業科目	5
大学院修士課程の高度な科目（ゼミなどの科目）	・大学院修士課程で学修する最終段階の水準の科目 ・修士研究など発展的な専門科目	6
大学院博士後期課程の科目	・大学院博士課程学生を対象とする科目 ・博士研究など専門的かつ発展的に高度な内容を扱う専門科目	7

⑥ 科目識別コード

上記①～⑤ごとに科目を識別するために 00～99 を付す。

CAP 制について

学生が1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、学修すべき授業科目を精選することで各授業科目について十分な学修時間(1単位当たり必要な45時間)を確保し単位の実質化を図ることを目的とします。

上限単位は、各学科学年に定める教育課程表の進級および卒業に関わる最低単位数に加えて5単位までとします(ただし、自由科目を除き、プラス5単位ないものに関しては最高単位数を上限とする。看護学科は別に示す)。これらを超えて履修登録することはできませんので注意してください。また、成績優秀者(前年度 GPA3.0 以上)へは成績状況に応じ、年間上限単位を超えて緩和します。成績不振者(前年度 GPA1.2 未満)へは学修支援を行い、進級に必要な最低単位数に留める厳格化の措置をとります(2018 年度入学者から適用)。

看護学科の上限単位は、各学年に定める教育課程表の進級に関わる最低単位数に加えて12単位までとします(ただし、自由科目を除く。また、保健師国家試験受験資格※に必要な履修科目についてはこの限りではない)。また、成績優秀者および成績不振者については他学科と同等な対応をとります。

※保健師国家試験受験資格に必要な履修科目はシラバス「看護学科・保健師国家試験受験資格に関して」に記載されています。

GPA について

1. GPA とは

Grade Point Average (グレード・ポイント・アベレージ) の略称であり、成績評価を GP (グレード・ポイント) で置き換え、単位数を掛けたものの総和を総履修登録単位数で割った値です。数値が高いほど良い成績を得ていると言えます。

2. 目的

GPA の活用により、学生の学習意欲を高めるとともに、本学における教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的とします。

3. 利用方法

- ・クラス担任による修学指導に利用します。
- ・年次終了時に当該年度の GPA が 1.0 未満であり、かつ総授業コマ数の 1/3 を超えて欠席している場合は、退学勧告を行うことがある。

4. 評価および GPA

成績の評語、および GP は、次表のとおりとします。

評語	GP (評価点)	100 点満点での評点範囲	評価基準
S	4	100 ～ 90 点	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
A	3	89 ～ 80 点	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている
B	2	79 ～ 70 点	到達目標を達成している
C	1	69 ～ 60 点	到達目標を最低限達成している
D	0	60 点未満	到達目標を達成していない
F	0	無資格科目	科目授業時間数の 3 分の 1 を超えて欠席した科目
N	—	認定科目	他大学等で修得した単位を本学において修得したものとみなすと判断された科目

5. GPA の算出式

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Sの修得単位数} \times 4) + (\text{Aの修得単位数} \times 3) + (\text{Bの修得単位数} \times 2) + (\text{Cの修得単位数} \times 1) + (\text{D,Fの単位数} \times 0)}{\text{総履修登録単位数 (D,Fの単位数も含む)}}$$

- ・小数点第2位までの数値で表記
- ・小数点第3位は四捨五入

6. GPA に含まれない科目

- ・卒業要件に含まれない自由科目
- ・本学において修得したものとみなすと判断された認定科目

看護学科・保健師国家試験受験資格に関して

1. 保健師国家試験受験資格に必要な履修科目および単位数

看護師及び保健師国家試験受験資格必要修得は、共に看護学科教育課程に示す単位を修得しなければならない。

保健師国家試験受験資格必要履修単位は、看護学科教育課程表の内「日本国憲法（選）」、「情報機器の操作（選）」、「公衆衛生看護学概論Ⅱ（選）」、「保健医療福祉行政論Ⅰ（選）」、「保健医療福祉行政論Ⅱ（選）」、「疫学（選）」、「公衆衛生看護実践論Ⅰ（選）」、「公衆衛生看護実践論Ⅱ（選）」、「学校保健・産業保健（選）」、「保健統計学演習（選）」、「地域診断論（選）」、「公衆衛生看護援助方法論（選）」、「地域ケアシステム論（選）」、「健康教育論（選）」、「公衆衛生看護管理論（選）」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ（選）」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ（選）」の単位を必ず修得しなければならない。

2. 保健師課程の選抜

1) 保健師課程の選抜対象学生

対象は3年生である。ただし、3年次までに修得しなければならない保健師教育課程に必要な科目を修得し、かつ保健師国家試験受験資格を希望する人とする。

2) 選抜人数

定員の15%程度とする。

3) 選抜時期および選抜方法

3年前期までの専門教育科目（看護師課程および保健師課程を含めた専門基礎分野と専門分野）の成績の平均点が上位の人を選出する。3年前期終了後、選抜結果を看護学科3年生の掲示板に発表する。選出から外れた学生については、保健師課程に関する科目のみ、年度途中の辞退を認める。ただし、辞退しても卒業要件を満たす場合に限る。

その後、何らかの事情により、定員数の15%未満になった場合、保健師課程の科目を選択している人の中から追加する可能性がある。

看護学科・教育課程

2023, 2022 年度の入学生(1, 2 学年)には、2022 年度の教育課程に従った授業が行われます。

保健衛生学部 看護学科 教育課程

そのー 1

系列分野	授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	人 間 倫 理 学	2								2		卒業要件 124単位 必修 110単位 選択 14単位以上 但し、14単位のうち 語学 2 単位以上は 選択必修とする
	心 理 学	2		2								
	教 育 学	2			2							
	文 学		1	1								
	哲 学		1	1								
	論 理 学		1	1								
	自 然 科 学		1	1								
	生 命 科 学		2	2								
	人 間 行 動 科 学		2							2		
	手 話		2			2						
	英 語	2		2								
	看 護 英 語 I	2				2						
	看 護 英 語 II		2					2				
	ド イ ツ 語		2			2						
	中 国 語		2					2				
	英 会 話	2				2						
	ポ ル ト ガ ル 語		2			2						
	社 会 学		1			1						
	文 化 人 類 学		2		2							
	数 学		2	2								
	物 理 学		2		2							
	化 学		2	2								
	日 本 国 憲 法		2		2							
	経 済 学		1							1		
	基 礎 ゼ ミ	2			2							
	合 計	14	30	24		11		4		5		

系列分野		授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎専門科目	人間の理解	人 体 形 態 学	2		2								
		人 体 機 能 学	2		2								
	環境の理解	医 療 関 係 法 規	1					1					
		社 会 福 祉 論	1				1						
		社 会 保 障 論	1					1					
		保健医療福祉行政論Ⅰ		1			1						
		保健医療福祉行政論Ⅱ		2			2						
		情 報 機 器 の 操 作		2		2							
		保 健 統 計 学	1			1							
		保 健 統 計 学 演 習		1					1				
		疫 学		2				2					
		音 楽 療 法		1								1	
		環 境 科 学 論		1							1		
		公 衆 衛 生 学	1				1						
		生 活 環 境 方 法 論		1					1				
	健康の理解	スポーツ・健康科学	2		2								
		微 生 物 学	1		1								
		免 疫 学	1			1							
		生 化 学	1			1							
		栄 養 学	1			1							
		薬 理 学	1			1							
		病 理 学	1			1							
		看護のための病態生理	1			1							
		成 人 期 疾 病 論 Ⅰ	1				1						
		成 人 期 疾 病 論 Ⅱ	1					1					
		成 人 期 疾 病 論 Ⅲ	1				1						
		小 児 期 疾 病 論	1					1					
		精 神 疾 病 論	1						1				
		診断のための検査学		1				1					
		放 射 線 医 学	1						1				
		医用機器管理論		1							1		
		医学通論 プラタナス ー 医 療 と 社 会	1			1							
		コンプリメンタリーセラピー		1				1					
	合 計		25	14	17		15		4		3		

保健衛生学部 看護学科 教育課程

そのー 3

系列分野	授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 科 目	基礎看護学系	看護学概論	1		1							
		対人コミュニケーション	1		1							
		基本看護技術Ⅰ	2		2							
		基本看護技術Ⅱ	2			2						
		看護過程展開論Ⅰ	1			1						
		看護過程展開論Ⅱ	2				2					
		看護倫理	1				1					
		看護と安全	1							1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1						
		基礎看護学実習Ⅱ	2				2					
	成人看護学系	成人看護学概論	1			1						
		成人クリティカル・周手術期看護方法論	1				1					
		成人セルフケア方法論	1				1					
		成人がん・難病・ターミナル看護方法論	1					1				
		成人看護学演習	2						2			
		成人看護学実習（クリティカル・周手術）	3							3		
		成人看護学実習（セルフケア）	3							3		
	小児看護学系	小児看護学概論	1				1					
		成長発達保健論	1					1				
		小児実践看護Ⅰ	1						1			
		小児実践看護Ⅱ	1						1			
		小児看護学実習	2							2		
	母性看護学系	母性セルフケア看護Ⅰ	1				1					
		母性セルフケア看護Ⅱ	2					2				
		母性セルフケア看護Ⅲ	1						1			
		母性看護学実習	2							2		
	精神看護学系	精神看護学概論	1			1						
		精神保健看護論	1				1					
		精神看護学方法論	2						2			
		精神看護学実習	2							2		
	老年看護学系	老年看護学概論	1			1						
		老年看護学援助論	2					2				
		老年看護実践方法論	1						1			
		老年看護学実習Ⅰ	1							1		
		老年看護学実習Ⅱ	3								3	
	在宅看護学系	在宅看護学概論	1				1					
		在宅看護学方法論	2					2				
		在宅看護学演習	1						1			
		在宅看護学実習	2							2		

保健衛生学部 看護学科 教育課程

そのー 4

系列分野		授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 科 目	統合看護	家 族 と 看 護		1			1						
		災 害 看 護	1								1		
		国 際 看 護	1						1				
		リハビリテーション看護	1						1				
		看 護 研 究 方 法 論	1						1				
		卒 業 研 究	2								2		
		看 護 管 理 学	1								1		
		統 合 実 習	2								2		
	公衆衛生看護学系	公衆衛生看護学概論Ⅰ	1			1							
		公衆衛生看護学概論Ⅱ		1			1						
		地 域 診 断 論		2					2				
		学 校 保 健 ・ 産 業 保 健		1			1						
		地 域 ケ ア シ ス テ ム 論		2					2				
		公衆衛生看護援助方法論		2					2				
		公衆衛生看護実践論Ⅰ		2			2						
		公衆衛生看護実践論Ⅱ		2			2						
		健 康 教 育 論		2						2			
		公衆衛生看護管理論		1							1		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		4							4		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ		1								1	
	（インタープロフェッショナル教育）	ア セ ン ブ リ Ⅰ （Interprofessional Education Ⅰ）	1			1							
		ア セ ン ブ リ Ⅱ （Interprofessional Education Ⅱ）	1				1						
		ア セ ン ブ リ Ⅲ （Interprofessional Education Ⅲ）	1						1				
		ア セ ン ブ リ Ⅳ （Interprofessional Education Ⅳ）		1							1		
合 計			71	22	13		27		36		17		
総 合 計			110	66	54		53		44		25		卒業要件 124単位 但し、語学2単位以上を含む 選択14単位以上を必要とする

（注）必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

保健衛生学部 看護学科 教育課程

そのー5

系列分野	授 業 科 目	単位数		1年		2年		3年		4年		備 考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自由科目	異文化看護概論		2	2		2		2		2		※
	インターンシップ		2	2		2		2		2		※
	日本語Ⅰ		1	1		1		1		1		※
	日本語Ⅱ		1		1		1		1		1	※
	国際医療演習Ⅰ		1	1	1	1	1	1	1	1	1	※
	国際医療演習Ⅱ		1	1	1	1	1	1	1	1	1	※

※：いずれかの学年で履修する。

(注) 必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

(注) 自由科目の修得単位は卒業資格必要単位に含めない。

保健衛生学部 看護学科 履修系統図（2022年度入学者から適応）

		1年生		2年生		3年		
		前期	後期	前期	後期	前期		
基礎分野	人間の理解	心理学(A-1)	教育学(A-7)	手話(A-14)	看護英語Ⅰ(A-17)	看護英語Ⅱ(A-20)		
		文学(A-2)		ドイツ語(A-15)			中国語(A-21)	
		哲学(A-3)						英会話(A-16)
		論理学(A-4)						
		自然科学(A-5)						
		英語(A-6)						
	環境の理解	数学(A-8)	文化人類学(A-11)	社会学(A-19)				
		生命科学(A-9)	物理学(A-12)					
		化学(A-10)	日本国憲法(A-13)					

専門基礎分野	人間の理解	人体形態学(B-1)				
		人体機能学(B-2)				
	環境の理解		情報機器の操作(B-3)	社会福祉論(B-14)	医療関係法規(B-18)	保健統計学演習(B-27)
			保健統計学(B-4)	保健医療福祉行政論Ⅰ(B-15)	社会保障論(B-19)	生活環境方法論(B-28)
				保健医療福祉行政論Ⅱ(B-16)	疫学(B-20)	
				公衆衛生学(B-17)		
	健康の理解	微生物学(B-5)	免疫学(B-6)	成人期疾病論Ⅰ(B-21)	成人期疾病論Ⅱ(B-23)	精神疾病論(B-29)
			生化学(B-7)	成人期疾病論Ⅲ(B-22)	小児期疾病論(B-24)	放射線医学(B-30)
			栄養学(B-8)		診断のための検査学(B-25)	
			薬理学(B-9)		コグニティブ・セラピー(B-26)	
			病理学(B-10)			
			看護のための病態生理(B-11)			
			医学通論(B-12)			
		スポーツ・健康科学(B-13)				

専門分野	基礎看護学系	看護学概論(C-1)	基本看護技術Ⅱ(C-4)	看護過程展開論Ⅱ(C-12)	看護倫理(C-14)	
		対人コミュニケーション(C-2)	看護過程展開論Ⅰ(C-5)	基礎看護学実習Ⅱ(C-13)		
		基本看護技術Ⅰ(C-3)	基礎看護学実習Ⅰ(C-6)			
	成人看護学系		成人看護学概論(C-7)	成人クリティカル・周手術期看護方法論(C-15)	成人がん・難病・ターミナル看護方法論(C-17)	成人看護学演習(C-32)
				成人セルフケア方法論(C-16)		
	小児看護学系			小児看護学概論(C-18)	成長発達保健論(C-19)	小児実践看護Ⅰ(C-35)
						小児実践看護Ⅱ(C-36)
	母性看護学系			母性セルフケア看護Ⅰ(C-20)	母性セルフケア看護Ⅱ(C-21)	母性セルフケア看護Ⅲ(C-38)
	精神看護学系		精神看護学概論(C-8)	精神保健看護論(C-22)		精神看護学方法論(C-40)
	老年看護学系		老年看護学概論(C-9)		老年看護学援助論(C-23)	老年看護実践方法論(C-42)
	在宅看護学系			在宅看護学概論(C-24)	在宅看護学方法論(C-25)	在宅看護学演習(C-44)
	公衆衛生看護学系		公衆衛生看護学概論Ⅰ(C-10)	公衆衛生看護学概論Ⅱ(C-26)	学校保健・産業保健(C-28)	地域診断論(C-46)
				公衆衛生看護実践Ⅰ(C-27)	公衆衛生看護実践Ⅱ(C-29)	公衆衛生看護援助方法論(C-47)
	統合看護			家族と看護(C-30)		国際看護(C-50)
						リハビリテーション看護(C-51)
						看護研究方法論(C-52)
	アセンブリ教育	アセンブリⅠ(C-11)		アセンブリⅡ(C-31)		アセンブリ

必修科目

選択科目

ディプロマ・ポリシー

4年生		
後期	前期	後期
	生命倫理学 (A-22)	
	人間行動科学 (A-23)	
	経済学 (A-24)	

	環境科学論 (B-31)	音楽療法 (B-32)
	医用機器管理論 (B-33)	

	看護と安全 (C-54)	
成人看護学実習 (クリティカル・周手術期) (C-33)		
成人看護学実習 (セルフケア) (C-34)		
小児看護学実習 (C-37)		
母性看護学実習 (C-39)		
精神看護学実習 (C-41)		
老年看護学実習 I (C-43)	老年看護学実習 II (C-55)	
在宅看護学実習 (C-45)		
地域ケアシステム論 (C-48)	公衆衛生看護管理論 (C-56)	公衆衛生看護学実習 II (C-58)
健康教育論 (C-49)	公衆衛生看護学実習 I (C-57)	
	災害看護 (C-59)	
	看護管理学 (C-60)	
	統合実習 (C-61)	
	卒業研究 (C-62)	
III (C-53)	アセンブリ IV (C-63)	

DP1. 看護職の基盤となる知識と技能を有している。

DP2. 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。

DP3. 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。

DP4. 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけている。

DP5. 多様な価値観があることを受け入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。

DP6. 保健医療福祉のチームに関わる人々と協調し、リーダーシップやフォローアップを発揮することができる。

DP7. 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。

DP8. 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。

学士 (看護学)

看護師国家試験受験・免許取得 (保健師国家試験受験・免許取得)

シラバスを読むにあたって

1. シラバスの構成について

シラバスは授業科目の学修内容を示した学修のためのガイドである。

授業科目ごとに学修内容の概要や学修により学生に到達して欲しい目標が示され、その到達度をどのような方法で、どのように評価するかを示している。評価結果についてどのように学生へフィードバックするかも示される。授業は複数回に渡って実施されるので、毎回どのような進捗で授業するか、さらに、講義、演習、実習など授業形態や具体的な実施手法(グループワーク、アクティブラーニングなど)も示している。授業で使用する教科書や参考書、受講するにあたっての注意事項も示されるので、事前に熟読のうえ準備を整えること。

2. シラバスの提供方法

医療科学部・保健衛生学部のシラバスは Web シラバス (World Wide Web を利用した Web ページで提供されるシラバス) により提供される。学生諸君は、パソコン、スマートフォンなどの Web ブラウザにて下記の URI にアクセスし、閲覧すること。

- 看護学科 1年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2023/gakubu/130/gakka/42/gakunen/1/>
- 看護学科 2年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2023/gakubu/130/gakka/42/gakunen/2/>
- 看護学科 3年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2023/gakubu/130/gakka/42/gakunen/3/>
- 看護学科 4年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2023/gakubu/130/gakka/42/gakunen/4/>

Web シラバスの URI は、「医療科学部・保健衛生学部学生ポータル」や「藤田学園 Web ページの『在学生の方』ページ」にもリンクを掲載している。

- 医療科学部・保健衛生学部 学生ポータル
<https://www.shs.fujita-hu.ac.jp/>
- 藤田学園 Web ページ「在学生の方」ページ
<https://www.fujita-hu.ac.jp/students/>

3. シラバスの各項目について

シラバスに記載される項目について説明する。

● 科目名

Web シラバスの上位中央に表示される。

1授業科目のシラバスは1ページにまとめて表示される。

必修・選択の別、単位数、開講時期の別(全期前期・後期)も掲載している。

● 科目概要

授業科目の概要を説明する。授業科目で何を学ぶのか、その意義、関連する科目について担当教員から学生へのメッセージとして記載してある。

また、医療機関や企業などで実務経験のある教員が担当する科目の場合、その旨を記載している。

● 到達目標

授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を記載してある。到達目標は複数の項目に分けて記載しており、それぞれの到達目標を意識して受講すること。

また、授業を終えた後には、この到達目標に対する到達度の自己評価を行い、学修成果可視化システム(アセスメンター)に入力して、自己の学修状況を管理・分析できるようにしている。

● 評価法

授業科目の成績(評価点)は到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合いをどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポートなど)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を記載してある。

複数の教員が評価する場合は、教員間の配分も示す。通年科目では、前期と後期の評価配分を記載する場合もある。

授業科目によっては評価に関する特別な注意点、ルール等が記載される場合があるので留意すること。

● 基準

到達目標に対してどの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを記載してある。

● フィードバック

評価のために実施した試験やレポートなどの評価結果を履修者へフィードバックする方法について記載してある。定期試験結果に対するフィードバックには、医療科学部・保健衛生学部 e ラーニング(Moodle)を利用する場合がある。

- **教科書**

授業で使用する教科書を記載してある。授業に臨む前に必ず購入すること。

- **教材参考書**

授業で用いる教材、参考書を記載してある。予習、復習のため、より学修を深めるためには参考書の利用を薦める。

- **連絡先**

授業に関する質問や問い合わせ等で電子メールや内線の利用を許可する場合は、電子メールアドレスと内線番号を記載してある。

- **講義形式**

授業の実施形態が「講義」、「演習」、「実習」、「実験」、「実技」のうちどれに該当するかを記載してある。授業によっては複数を組み合わせている場合がある。

- **形式内容**

授業で用いられる具体的な実施形式を記載している。特にアクティブラーニングを採用する授業では、「TBL」(Team-based Learning)、「PBL」(Problem-based Learning)、「反転授業」、「ディスカッション・ディベート」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「ICT 活用」のいずれの実施形式が利用されるかを明記している。具体的内容については『形式内容説明』の項目を参照すること。

- **事前事後学修時間**

授業を受ける上で必要とされる事前学修・事後学修(予習・復習等)に必要な時間を示している。大学設置基準第 21 条において、1 単位の授業科目に必要な全学修時間は 45 時間とされており、大学における 1 時限(1 コマ)の授業の学修時間は 2 時間に相当する。よって、大学において授業を受けた時間だけでは 45 時間には達しない場合がある。そのような授業科目の到達目標は、残りの学修時間分を学生自らが授業時間外で事前学修・事後学修することを想定し、設定されている。

- **事前事後学修内容**

授業を受ける上で必要とされる事前学修・事後学修(予習・復習等)について、具体的な学修内容や学修の指示を記載している。事前学修・事後学修に医療科学部・保健衛生学部 e ラーニングを利用する場合がある。

履修にあたっては遵守すること。

- **履修上の注意点**

授業を受ける上での指示(持参する文房具、ノートに関する指示など)が記載される場合があるので、よく確認すること。

その他には、学修の心構えや私語に関する注意、資格試験に関する事項等、様々な注意点が記載される。

- **実務経験科目**

医療機関や企業などで実務経験のある教員により授業が実施される授業科目の場合、本項目に「該当」と表示している。

- **形式内容説明**

『形式内容』に示された授業形式について、具体的にどのような方法・内容で授業が実施されるのか概要を説明している。

- **科目責任者**

授業科目の最終的な成績評価の責任者である。

- **担当教員・オフィスアワー**

授業科目を担当する教員と、各教員が授業に関する質問などを受付ける特定の曜日・時間帯・場所を記載してある。設定されたオフィスアワーにて教員に質問する場合は、事前連絡は不要である。事前に連絡が必要な場合は『**連絡先**』に記載される場合があるので考慮すること。

- **授業日程**

No.	授業回数
開講	授業を実施する月日・曜日・時限 ※予定
種別	講義・演習・実習・実験の別
担当者名	当日の授業を担当する教員名
到達目標	授業のテーマ、授業内容の詳細について記載
使用教室	授業を実施する場所（部屋）

なお、1つの授業科目を複数グループに分けて別日程で実施する場合は、複数の授業日程が記載される。自分がどのグループに該当するかは、担当教員の指示に従うこと。

3. 注意事項

- 授業科目によっては「2. シラバスの各項目について」に示した項目以外に、独自に授業に関する情報が提供される場合がある。
- 「授業日程」の「開講」に掲載される月日・時限はシラバス編集時点の実施予定のため、実際の曜日・時限は変更される場合がある。授業日程変更について必ず掲示板などで確認すること。
- 指定された教科書以外に図書、教材の購入が必要な場合がある。担当教員の指示に従うこと。

